



アスペン・ジュニア・セミナー終了報告

昨年のグローバル通信89号でご紹介したアスペンジュニアセミナーに高2の山本君、川上君が参加し計3回のセミナーが終了しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンラインでの開催となりました。両君に寄稿してもらいましたのでご一読いただけると幸いです。ご記憶にない方もおられると思いますのでセミナーの概要を簡単にご紹介します。



○アスペンジュニアセミナーとは？

東西の「古典」を教材に参加者による「対話」を通して「よく生きるとは」、「何のために学ぶのか」、「何のために働くのか」、「大切にしたい価値」といった人生の重要な課題について考えることを目的としています。

(写真 左：川上君 右：山本君)

○使用テキスト

オリエンテーション 芭蕉 「おくのほそ道」

Day 1 アリストテレス 「形而上学」 ソロー 「ウォールデン」

Day 2 旧約聖書 「創世記」 オルテガ「大衆の反逆」

Day 3 森 鷗外 「かのように」

○モデレーター

関根清三先生（東京大学名誉教授） 荻野弘之先生（上智大学教授）など

アスペンジュニアセミナーを終えて

高校2年2組 山本橋介

今年のアスペンジュニアセミナーは新型コロナウイルスの感染拡大からオンラインという形で開催されました。古典と言われたら学校の授業で扱う古文・漢文を思い浮かべるかもしれませんが、このセミナーでは『形而上学』や『創世記』など西洋文学も含め、幅広いテーマを取り扱います。

参加してみて一番思ったことは文学という学問の奥深さでした。そもそも僕を含め多くの生徒は、学校からの課題でない限り、自分から文学作品を読む機会は少ないと思います。古文の授業で扱う作品も文学ですが、助動詞や文法などを基本として文章の意味を理解する

ものであり、飛躍した解釈は好まれません。読者と質問者の対話に近いものです。それに対してこのセミナーでは基本的には解釈が自由で、当然正解はありません。それに加えて問いを一人一人が自ら考えていく必要があります。何もないところから問いと答えを自ら繰り返して、自分なりに文学作品を解釈する、いわば真っ白な紙に絵を自由に描くようなものであったと感じました。これがアスペンが重視にしている作者と読者の対話であると思います。

だからと言って決して一人だけで考える必要がないのが、アスペンジュニアセミナーの強みです。リソースパーソンの方々や他校から参加する生徒の意見を対話を通して取り入れることができます。同じ部分であっても自分の解釈と他の参加者の解釈では全く異なることがたびたびあり、驚かされました。他者との対話の中で自分の考えを昇華させ、言語化することで作品に対する理解がより深まっていくことが感じられます。

読み手の経験や着眼点によって同じ作品でも全く異なるものに変貌する可能性を秘めているところが文学の奥深さであり、言葉通り文学という学問の「奥行き」を実感しました。

「文学なんて学んでも役に立たない」とか「過去なんて過去でしかないんだよ」なんて言って先人たちが残してきた知恵を嫌う人もいるかもしれませんが、僕はそうとは思いません。何か信念を持っている人、将来を見据えている人、大学でなんの学問を学ぶかまだ決めていない人、どのような人であっても古典に触れて自分の生き方を見つめ直す機会が必要なのではないのでしょうか。興味を持った生徒は来年以降、是非参加してみてください。

アスペンジュニアセミナーを終えて

高校2年1組 川上 礼志郎

みなさんにとって、よく生きるとはどのようなことでしょうか。人それぞれ答えがあると思いますが、豊かな答えを探すときには、様々な価値観に触れながら自分でも考えを深めることが大切ではないのでしょうか。このセミナーを通して視野を広げ自己分析をする経験はなかなか得られない経験なので、ぜひ参加してほしいと思います。

アスペンセミナーは、松尾芭蕉の『おくのほそ道』やアリストテレスの『形而上学』といった古典を題材とし、各参加者の事前の読み込みや、セミナー当日の参加者同士の対話を通して作品やそのテーマ、そして自分自身の理解を深めていくことを目的としています。特にこのセミナーの特徴は、「教える/教わる」の関係ではなく、各参加者の個人的な体験や自由な発想を重要視した「共同作業」の関係である点です。それぞれが一理も二理もある相異なった考え方を寄せ合うので、題材のテーマに様々な見方が生まれたり、自分の意見を振り返ったりすることができると思います。

例えば、題材の一つに米国作家ソローの『ウォールデン』という作品があります。人は絶望に抱きすくめられて生きていると見た時、「生きているだけで十分に楽しい」と確信するために何が必要か、を考えた作者が森に移り住み、その経験から街の人に語りかけるという作品です。作者は作品の中で街の生活を「装飾的」と批判し、森の中のように「深々と」

「簡素に」生きることを呼びかけるのですが、その論調でも「ぼくら」などの言葉を多用し人々を意識している点、芭蕉も同じように『おくのほそ道』を志して江戸を出立した後に「かるみ」の境地に達している点などから、自分は作者の本意はそこにはないのではないか、彼はこの後街に帰るのではないかとセミナーの中で発言しました。すると、他の参加者から様々な場面から読み取った意見が寄せられ、30分以上も様々な対話が交わされまし

た。結局、リソース・パーソン（同席する教授）によりかれは街に帰ったということが分かるのですが、賛否両論、根拠も様々で、そのような視点の多様性がとても印象的でした。

自分の知らない視点を知ろう、という言葉はきっとみなさんなら頭の片隅に既にあるでしょう。しかし、それがどういう意味かは、普段の学校生活では分かりにくいと思います。アスペンセミナーに限らず、留学や社会科の取材など、これを実感できる機会は多々あると思うので、ぜひ積極的に参加してみたいと思います。

ボストンオンライン研修の紹介（中1～高2）再掲

12月最終号での紹介でもあったことから十分に情報が伝わっていなかったようで残念ながら期待していたような反応がまだ出ておりません。主催者側のご厚意で応募締め切りを2月13日（土）まで伸ばしていただけることになりました。中学生コース、高校生コースともオリエンテーションは本校で対面での実施を考慮しておりましたが、今後の感染状況によっては実施方法を変更させていただくこともございます。

有料プログラムとなりますが、興味のある生徒諸君はぜひ検討してみてください。

①Bostonオンライン研修（中学生コース）

ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学（MIT）を歩き未来の進路を考える

日程：3月上旬 基礎研修（約120分）本校で対面にて実施予定（ボストンブリッジ日本人スタッフが担当するオリエンテーション）

3月23日（火）9：00～11：30

世界一の学びの街ボストンを知ろう、自分の夢とグローバルな未来開拓
マカレスター大学日本語学士、ハーバード大学教育学修士によるライブセッション
ライブセッション振り返り

3月24日（水）9：00～11：30

MITで学ぶということ、ハーバード大学で学ぶということ
MITメディアラボ研究員、ハーバード大学大学院生によるライブセッション
ライブセッション振り返り

*時差の関係でライブセッションは日本時間の午前中に実施されます。講師、講義内容は変更になる場合もあります。

募集人数：中学生10名～25名

やる気があれば学年及び英語力は問いません。

費用（税込み）：10～19名 @117,000円 20名以上 @99,800円

最低催行人数は10名

プログラム運営：ボストンブリッジ（代表：蝦名 恵 東京事務所は東京台東区）

取扱旅行社：日本旅行東京教育旅行営業部

②Bostonオンライン研修（高校生コース）

SDGs「すべての人に健康と福祉を」ボストンで出会う最先端の医学

日程：3月上旬 基礎研修（約120分）本校で対面にて実施予定（ボストンブリッジ日本人スタッフが担当するオリエンテーション）

3月25日(木) 9:00~11:00

栄養学と予防医学 高血圧予防食(DASH)が開く持続可能な健康社会
ハーバード大学公衆衛生学スクール上級研究員によるライブセッション
ライブセッション振り返り

3月26日(金) 9:00~11:00

再生医学と医療ビジネス 再生医学研究が創造する新時代の医療ビジネス群
ハーバード大学幹細胞研究所最高責任者によるライブセッション
ライブセッション振り返り

3月27日(土) 9:00~11:00

感染症と施設 感染症パンデミックに対応した新しい施設設計
PLアーキテクチャー代表取締役によるライブセッション
ライブセッション振り返り

*時差の関係でライブセッションは日本時間の午前中に実施されます。講師、講義内容は変更になる場合もあります。

募集人数：高校生10名~25名

やる気があれば学年及び英語力は問いません。

費用(税込み)：10~19名 @139,000円 20名以上 @119,000円

最低催行人数は10名

プログラム運営：ポストンブリッジ(代表：蝦名 恵 東京事務所は東京台東区)

取扱旅行社：日本旅行東京教育旅行営業部

①、②とも興味のある生徒諸君にはパンフレット及び申込書を差し上げます。グローバル教育部までどうぞ。

申し込み期間は2021年2月13日(土)朝8時までとします。申込書をグローバル教育部へ提出して下さい。



MIT キャンパス



ハーバード大学 キャンパス

今回は残念ながら訪米できませんが、ライブセッション中は画面越しに第一線で活躍する研究者に質問することができます。